

課題管理実施報告書

報告日：2009年8月 21日

プログラム	アジア科学技術の戦略的推進：アジア科学技術コミュニティ形成戦略
課題名	アジア原子力エネルギー産学官連携教育研究ネットワーク
実施日	2009年7月15日(水)～16日(木)
場所	東海大学校友会館
形式	一般公開・ <input type="checkbox"/> シンポジウム <input type="checkbox"/> セミナー <input type="checkbox"/> 講演会 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> その他(視察)
	展示物：有(機器・設備 <input type="checkbox"/> パネル <input type="checkbox"/> ビデオ上映 <input type="checkbox"/> 体験型 <input type="checkbox"/> その他()) <input type="checkbox"/> 無
対象者	<input type="checkbox"/> 一般 学生(中学・高校・大学) <input type="checkbox"/> その他()
来場者	人数：80名、(内訳 海外招聘者12名、国内招聘者10名、その他参加者68名)
周知方法	新聞 雑誌 学会誌 メディア取材 プレスリリース HP, <input type="checkbox"/> メール発信 <input type="checkbox"/> その他(開催通知送付)
実施者	○実施取り纏め者を記載 学校法人東海大学国際戦略本部
内容	○実施内容を具体的に記載 <p>■シンポジウム：日本の原子力技術の発展の一翼を担う原子力産業界、特に当該分野では世界における3大メーカーである、東芝・三菱重工業・日立GEや東北電力などの電力系企業と協同し、原子力エネルギー導入を検討する東・東南アジア地域のベトナム・インドネシア・タイ・フィリピン・中国、そして資源輸出国としてその存在感を新たにしている中央アジアのカザフスタン・ウズベキスタン・モンゴルなどの原子力教育・研究を行う大学との間で原子力関連の教育・研究情報の収集を行い、現状の課題などを共有することで、新たに本分野における国際産学官連携コミュニティの構築の実現を目指した。</p> <p>■原子力発電所視察：柏崎刈羽原子力発電所を視察し、地震の被害から復旧した7号機の視察などを通し、当該分野で日本がイニシアチブをとれるよう、日本の原子力技術の高い安全性、運用・管理の状況を紹介した。</p>
効果、問題点、今後の展望と課題	○実施した効果を具体的に記載 <p>シンポジウムにおいては、各国の原子力関連分野の状況や課題を共有することができた。それにより、今回参加した各国の大学や機関で協同し、原子力分野の教育・研究活動において、共通のテキストや手引きなどを、協同で作成していくことが提案された。また、今回のシンポジウムを通じて、今後も日本国内および海外のネットワークを強化していくことが、参加者全員で確認された。</p> <p>原子力発電所見学においては、大きな地震から復旧し、運転を再開したという日本の高い技術力に対し、各国の参加者から驚嘆の声が上がった。これら、日本の高い技術力や研究成果を基に、当該分野で日本はアジアにおいてリーダーシップを発揮できるだけの実力を持っているということが証明された。</p> <p>○ 実施上の問題点を具体的に記載 原子力という機微な学術分野であることで、法的な部分でクリアすべきハードルがあ</p>

	<p>ることが予測される。国により、そのハードルが区々であるため、共通の資料をどのレベルで作成していくのかという部分は、慎重に精査していく必要がある。</p> <p>○ 今後のコミュニティ形成に向けての展望と課題を具体的に記載</p> <p>エネルギーと環境問題は、全世界の喫緊の課題であり、特に東南アジアにおいては、原子力発電所の導入を表明した国も出てきており、原子力という学術分野への期待は高まるばかりである。その中で、原子力エネルギーを平和に且つ安全に利用するという点において、日本が世界の中では先頭に立っているといっても過言ではない。そのような技術力や研究成果を用い、アジアの中で原子力の平和利用・安全利用を進めていくリーダーとなるべく、今後も本シンポジウムで形成されたネットワークを有効に活用していく。研究内容によっては、法的な規制がかかるという点が課題ではあるが、可能な限り、日本が培ってきた成果を基に、本分野におけるリーダーシップを発揮していくことが期待される。</p>
<p>反省事項</p>	<p>○ 上記事項に関する反省点を記載</p> <p>準備の時間がやや短かったため、事前にプロシーディングの印刷などができず、後日の配布ということになってしまった。特に、海外からファイルの提出が遅く、当日持参する場合もあったため、配布作業に時間を要してしまった。</p> <p>○ 他の実施者に参考となる事項を中心に記載</p> <p>■ 招聘者の来日にあたっては、大使館側が出迎えの手配や、別途宿泊を手配するような人物である可能性があり、当初のアレンジやスケジュールと違う行動をする場合も考えられるので、在日大使館や領事館には、事前に当該人物が来日することを伝えておくのがよい。</p>
<p>特記事項</p>	<p>○ 気づき事項、要望等を記載</p> <p>外国人招聘者の宿泊費の上限をもう少し上げていただきたい。</p>